

ビューポイント『医師はいかにして医師になるのか』

臨床研修管理室 杉田 直人 係長

ビューポイント

時代の流れと共に変遷する臨床研修制度 医師はいかにして医師になるのか

函館中央病院臨床研修管理室 杉田直人係長

現在、医師は単純に医師国家試験に合格して日常的に診療業務を行っているわけではない。ではどのようなプロセスを経て、診療業務を行い始めるのか。そんな疑問を、函館中央病院（函館市）臨床研修管理室の杉田直人係長に聞いた。



杉田係長

医師免許取得後に受ける 初期臨床研修

医師になるためには、大学の医学部に進んで6年間の教育を受け、医師国家試験に合格する必要がある。医師国家試験に合格すれば医師免許を取得できるが、すぐに診療に従事できるわけではなく、研修医として2年間の初期臨床研修を受ける必要がある。これは新医師臨床研修制度と呼ばれ、平成16年に法律で義務付けられている。

「新医師臨床研修制度が始ま

る以前は、医師免許取得後、希望する診療科の医局に入局し、専門的な診療を行うという流れがありました。しかし、専門家は育つものの、救急の初期対応をはじめ、総合的な診療能力を身に付けた人材が育成されないという課題を生むことになりました。臨床研修制度はこのようなことを背景に整備された仕組みです」

（杉田係長）

臨床研修制度で学ぶ診療科は、内科、外科、救急、小児科、産婦人科、精神科、地域医療の7科。

臨床研修の受け入れ先となるのが、大学病院と臨床研修病院だ。臨床研修病院には病床数や診療科等さまざまな指定基準があり、さらに基幹型と協力型の2つに分類される。

研修を行っています。また、当院は北海道大学病院等の協力型病院でもあり、臨床研修プログラムの一部を担っています。

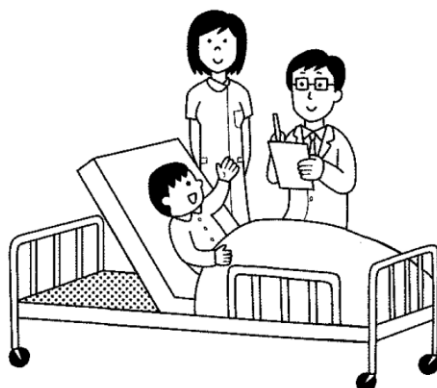
実習生と

研修医の違いとは

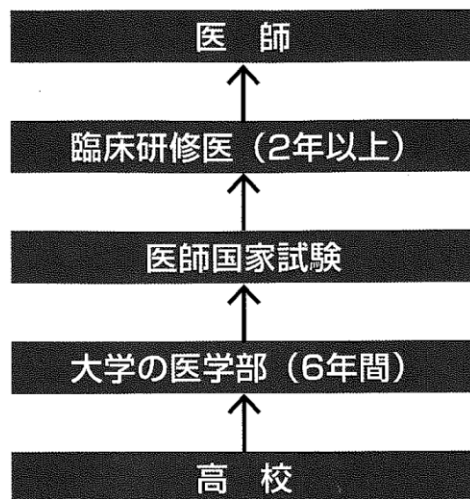
ちなみに、一般の方にとって実習生と研修医の違いはよくわからないものと思われるが、前述したように、研修医は大学を卒業し、医師免許を

取得している段階。一方、実習生は基礎医学や臨床医学を学んできた5～6年生を指し、医師免許はまだ取得していない段階。流れとしては、実習生は6年次の2月に実施される医師国家試験を受け、医師免許取得を目指すことになる。

「なお、現在の医学部教育は国際的に通用する医師を養成しようという流れになっています。そのためには実習時間をもっと増やし、内容も大学と協力病院で深めてもらおう



医師の育成を支える臨床研修制度



医師になるまでの流れ

と「コア科臨床実習」というプログラムが組まれています。この実習を受けるためには、大学で共用試験に合格する必要がありますが、合格者は「ステューデント・ドクター」として認定されることになっています。

ステューデント・ドクターの認定はもちろん医師免許ではないのだが、本来医行為を認められていない医学生に、実習の範囲内で医行為を行うことの認証を、各医育機関が与えられる資格となっている。「ステューデント・ドクター

るので、医師として通常の診療業務に就くことができ

「3年目以降は、専門医を目指す後期研修のプログラムというものもありま

す。当院の場合ですと、自身が将来進みたい診療科が決まっている医師は、大学の医局に進み、次のステップを目指すケースがほとんどです」。

臨床研修制度自体は5年に一度改定され、その都度、時代の流れやニーズを反映しながら検討されるものとなっている。

「修了時、研修医から『この病院に来てよかった』という言葉

事を受けてよかったと思う瞬間です。また、研修を受けた先生が数年後に当院に戻り、活躍する姿をみるのもうれし

いものです。超高齢化、コロナ禍等、医療をめぐる厳しい情勢が続きますが、今後も臨床研修制度を通して若い先生方を支えていければ」と話す。

専門医を目指す 後期研修

2年間の初期臨床研修を修了すると、法的に義務付けられた期間は終了したことになる

臨床研修管理室 の役割

杉田係長が所属する臨床研